（様式第9）

慈病管（20）第129号

平成 20 年 10 月 3 日

厚生労働大臣　殿

開設者名　学校法人 [redacted]

理事長　栗原 [redacted]

東京慈恵会医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法第12条の3の規定に基づき、平成19年度の業務に関して報告します。

記

1．高度の医療の提供の実績 → 別紙参照（様式第10）

2．高度の医療技術の開発及び評価の実績→別紙参照（様式第11）

3．高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	115人

（注）前年度の研修医の実数を記入すること。

4．診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法

→ 別紙参照（様式第12）

5．診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績

6．他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績

→ 別紙参照（様式第13）

7．医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種		員数
医師	568人	227人	590.7人	看護業務補助	23人	診療ｴｯｸｽ線技師		0人
歯科医師	6人	4人	6.4人	理学療法士	13人	臨床	臨床検査技師	98人
薬剤師	66人	0人	66.0人	作業療法士	6人		衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0人	視能訓練士	11人	検査	その他	0人
助産師	19人	0人	19.0人	義肢装具士	0人	あん摩ﾏｯｻｰｼﾞ指圧師		0人
看護師	936人	5人	938.6人	臨床工学技士	15人	医療社会事業従事者		5人
准看護師	1人	0人	1.0人	栄養士	25人	その他の技術員		97人
歯科衛生士	3人	0人	3.0人	歯科技工士	0人	事務職員		166人
管理栄養士	18人	5人	21.4人	診療放射線技師	67人	その他の職員		3人

（注）1．報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。

2．栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。

3．「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下第2位を切り捨て、小数点以下第1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8．入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	907人	2人	909人
1日当たり平均外来患者数	2,874人	48人	2,922人
1日当たり平均調剤数	入院 951剤	外来 598剤	合計 1,549剤

（注）1．「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。

2．入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数（毎日の24時現在の在院患者数の合計）を暦日で除した数を記入すること。

3．外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4．調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

（様式第 10）

高度の医療の提供の実績

１．先進医療の届出受理の有無及び取扱い患者数

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	有・(無)	人
膝靭帯再建手術における画像支援ナビゲーション	有・(無)	人
凍結保存同種組織を用いた外科治療	有・(無)	人
胎児心超音波検査	有・(無)	人
インプラント義歯	有・(無)	人
顎顔面補綴	有・(無)	人
顎関節症の補綴学的治療	有・(無)	人
経皮的埋め込み電極を用いた機能的電子刺激療法	有・(無)	人
人工括約筋を用いた尿失禁の治療	有・(無)	人
光学印象採得による陶材歯冠修復法	有・(無)	人
経皮的レーザー椎間板減圧術	有・(無)	人
造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物 P 糖蛋白の測定	有・(無)	人
スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法	有・(無)	人
CT ガイド下気管支鏡検査	有・(無)	人
先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	有・(無)	人
筋強直性又は筋緊張性ジストロフィーの DNA 診断	有・(無)	人
SDI 法による抗悪性腫瘍感受性試験	有・(無)	人
三次元形状解析による顔面の形態的診断	有・(無)	人
HDRA 法又は CD - DST 法による抗悪性腫瘍感受性試験	有・(無)	人
子宮頚部前がん病変の HPV-DNA 診断	有・(無)	人
腹腔鏡下肝部分切除術	有・(無)	人
悪性腫瘍に対する陽子線治療	有・(無)	人
エキシマレーザーによる治療的角膜切除術	有・(無)	人
成長障害のＤＮＡ診断	有・(無)	人
門脈圧亢進症に対する経頚静脈肝内門脈大循環短絡術	有・(無)	人
乳房温存療法における鏡視下腋窩郭清術	有・(無)	人
声帯内自家側頭筋膜移植術	有・(無)	人
骨髄細胞移植による血管新生療法	有・(無)	人
ミトコンドリア病のＤＮＡ診断	有・(無)	人
鏡視下肩峰下腔徐圧術	有・(無)	人
神経変性疾患のＤＮＡ診断	有・(無)	人
難治性眼疾患に対する羊膜移植術	有・(無)	人
重粒子線治療	有・(無)	人
脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	有・(無)	人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
31 燐一磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断	有・(無)	人
神経芽腫の RNA 診断	有・(無)	人
硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	有・(無)	人
重症ＢＣＧ副反応症例における遺伝子診断	有・(無)	人
骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体窒素処理骨移植	有・(無)	人
膵腫瘍に対する腹腔鏡補助下膵切除術	(有)・無	0人
低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断	有・(無)	人
悪性脳腫瘍に対する抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子解析	有・(無)	人
Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子診断	有・(無)	人
エキシマレーザー冠動脈形成術	有・(無)	人
活性化Ｔリンパ球移入療法	有・(無)	人
家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	有・(無)	人
膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術	有・(無)	人
三次元再構築画像による股関節疾患の診断及び治療	有・(無)	人
泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	有・(無)	人
HLA 抗原不一致血縁ドナーからの CD34 陽性造血幹細胞移植	有・(無)	人
頚椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによる CT 透視下の経皮的椎間板減圧術	有・(無)	人
ケラチン病の遺伝子診断	有・(無)	人
隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断	有・(無)	人
末梢血幹細胞による血管再生治療	有・(無)	人
末梢血単核球移植による血管再生治療	有・(無)	人
一絨毛膜性双胎妊娠において発生した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	有・(無)	人
カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	有・(無)	人
先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	有・(無)	人
超音波骨折治療法	(有)・無	1人
ＣＹＰ２Ｃ１９遺伝子多型検査に基づくテーラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	有・(無)	人
非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	有・(無)	人
Ｘ線ＣＴ画像診断に基づく手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	有・(無)	人
定量的ＣＴを用いた有限要素法による骨強度予測評価	有・(無)	人
膀胱水圧拡張術	有・(無)	人
色素性乾皮症に係る遺伝子診断	有・(無)	人
先天性高インスリン血症に係る遺伝子診断	有・(無)	人
歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法	有・(無)	人
セメント固定人工股関節再置換術におけるコンピュータ支援フルオロナビゲーションを用いたセメント除去術	有・(無)	人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
腹腔鏡下直腸固定術	有・(無)	人
骨移動術による関節温存型再建	有・(無)	人
肝切除手術における画像支援ナビゲーション	有・(無)	人
樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法（腫瘍抗原を発現する消化管悪性腫瘍）	有・(無)	人
自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・(無)	人
自己腫瘍・組織及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・(無)	人
リアルタイムPCRを用いた迅速診断	有・(無)	人
内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	有・(無)	人
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	有・(無)	人
先天性難聴の遺伝子診断	有・(無)	人
フェニルケトン尿症の遺伝子診断	有・(無)	人
培養細胞による先天性代謝異常診断	有・(無)	人
腹腔鏡下子宮体がん根治手術	有・(無)	人
培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	有・(無)	人
内視鏡下頚部良性悪性腫瘍摘出術	有・(無)	人
悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	有・(無)	人
腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱病変に対する経皮的骨形成術	有・(無)	人
悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	(有)・無	0人
カフェイン併用化学療法	有・(無)	人
胎児尿路・羊水腔シャント術	有・(無)	人
筋過緊張に対するmuscle afferent block（MAB）治療	有・(無)	人
胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・(無)	人
腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・(無)	人
内視鏡下甲状腺がん手術	有・(無)	人
骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法	有・(無)	人
下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法	有・(無)	人
胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術	有・(無)	人
早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索	有・(無)	人
副甲状腺内活性型ビタミンD（アナログ）直接注入療法	有・(無)	人

（注）1「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

2 先進医療で上の表に掲げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。

（様式第10）

2．特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾　患　名	取扱い患者数	疾　患　名	取扱い患者数
・ベーチェット病	123人	・モヤモヤ病（ウィリス動脈輪閉鎖症）	70人
・多発性硬化症	133人	・ウェゲナー肉芽腫症	36人
・重症筋無力症	227人	・特発性拡張型（うっ血型）心筋症	57人
・全身性エリテマトーデス	425人	・多系統萎縮症	10人
・スモン	2人	・表皮水疱症（接合部型及び栄養障害型）	1人
・再生不良性貧血	141人	・膿疱性乾癬	14人
・サルコイドーシス	162人	・広範脊柱管狭窄症	11人
・筋萎縮性側索硬化症	27人	・原発性胆汁性肝硬変	363人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	342人	・重症急性膵炎	25人
・特発性血小板減少性紫斑病	213人	・特発性大腿骨頭壊死症	72人
・結節性動脈周囲炎	21人	・混合性結合組織病	103人
・潰瘍性大腸炎	327人	・原発性免疫不全症候群	6人
・大動脈炎症候群	42人	・特発性間質性肺炎	13人
・ビュルガー病	30人	・網膜色素変性症	250人
・天疱瘡	81人	・プリオン病	0人
・脊髄小脳変性症	83人	・原発性肺高血圧症	7人
・クローン病	82人	・神経線腫症	692人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	2人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・悪性関節リウマチ	17人	・ﾊﾞｯﾄﾞ・ｷｱﾘ（Budd-Chiari）症候群	2人
・パーキンソン病関連疾患	12人	・特発性慢性肺血栓塞栓症（肺高血圧症）	4人
・アミロイドーシス	51人	・ﾗｲｿｿﾞｰﾑ病（ﾌｧﾌﾞﾘ-［Fabry］病）含む	137人
・後縦靭帯骨化症	56人	・副腎白質ｼﾞｽﾄﾛﾌｨ-	2人
・ハンチントン病	1人		

（注）「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

3．**病理・臨床検査部門の概要**

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①．臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2．臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した病例検討会の開催頻度	年間　20回	
剖　検　の　状　況	剖検症例数　65　例	剖検率　12.3　%

（様式１１）

高度の医療技術の開発及び評価の実績

１．研究費補助等の実績

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
1	新しい診断機器の検診への応用とこれらを用いた診断精度向上に関する研究	田尻 久雄	消化器・肝臓内科	100万円	(補)・委	厚生労働省科学研究費
2	膵臓癌に対する改良型融合細胞と化学療法併用による新規治療法の開発	田尻 久雄	消化器・肝臓内科	200万	(補)・委	日本市立学校振興・共済事業団
3	運動神経細胞の選択的脆弱性に関する分子細胞機構の解明	河野 優	神経内科	100万円	(補)・委	文部科学省 科学研究費補助金 若手研究（B）
4	腎疾患における低酸素応答機構の解析と血管再生医療の応用について	宇都宮保典	腎臓・高血圧内科	130万円	(補)・委	文部科学省科研費、基盤研究C
5	BMPの糸球体発生および糸球体障害における役割	宮崎陽一	腎臓・高血圧内科	156万円	(補)・委	文部科学省科研費、基盤研究C
6	腎臓における尿酸動態の分子生物学的解析	市田公美	腎臓・高血圧内科	156万円	(補)・委	文部科学省科研費、基盤研究C
7	異種胎児を用いた自己間葉系幹細胞由来クローン腎臓作成法の開発	横尾　隆	腎臓・高血圧内科	156万円	(補)・委	文部科学省科研費、基盤研究C
8	CD26に基づく難治性糸球体腎炎の治療応用への基礎的研究	小林政司	腎臓・高血圧内科	160万円	(補)・委	文部科学省科研費、若手研究B
9	小児ネフローゼ症候群に対する初期治療確立を目指した多施設共同臨床研究と拡大臨床試験体制整備	川村哲也	腎臓・高血圧内科	50万円	(補)・委	厚生労働科学研究費補助金
10	がん細胞のストレス応答機構および薬物排出機構を標的としたがん化学療法の開発	相羽　惠介	腫瘍・血液内科	62.5万円	(補)・委	学術フロンティア推進事業
11	高齢者における生体防御の予防法と免疫老化レベルの標準化に関する研究	中山勝敏	呼吸器内科	85万円	補・(委)	厚生労働省長寿医療研究委託事業
12	酸化ストレス制御による高齢者呼吸器疾患の新たな治療法の確立	中山勝敏	呼吸器内科	234万円	(補)・委	独立行政法人日本学術振興会平成１９年度科学研究費補助金
13	肺損傷と再生における抹消気道の役割とナノテクノロジーを用いた治療法の研究	桑野和善	呼吸器内科	980万円	(補)・委	独立行政法人日本学術振興会平成１９年度科学研究費補助金
14	総合診療・プライマリケア領域におけるうつ病性障害と健康関連QOLとの関連	松島　雅人	総合診療部	52万円	(補)・委	文部科学省　科学研究費 (基盤研究(C))

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
15	覚醒睡眠移行期(睡眠早期)の呼吸および脳循環調節の研究	古太島　太	総合診療部	91万円	(補)・委	文部科学省　科学研究費 (基盤研究(C))
16	ラミニンプロモーター遺伝子の心筋症、腎硬化症，糖尿病病態発症に関する研究	鈴木　英明	総合診療部	130万円	(補)・委	文部科学省　科学研究費 (基盤研究(C))
17	小児救急のあり方に関する研究	衛藤義勝	小児科	700万円	(補)・委	厚生労働省科学研究費補助金 医療安全・評価総合研究事業
18	ライソゾーム病（ファブリ病含む）に関する研究	衛藤義勝	小児科	4,290万円	(補)・委	厚生労働省科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業
19	ライソゾーム病の酵素補充療法における酵素製剤に対する免疫寛容誘導法の開発	衛藤義勝	小児科	180万円	(補)・委	科学研究費補助金基礎研究Ｃ
20	神経皮膚症候群に関する調査研究	中川　秀己	皮膚科	100万円	(補)・委	厚生労働科学研究費補助金
21	性感染症に関する特定感染症予防指針の推進に関する研究	本田　まりこ	皮膚科	200万円	(補)・委	厚生労働科学研究費補助金
22	慢性肝不全治療のための埋め込み型人工肝臓の開発および腎臓の肝臓化	矢永 勝彦	外科	380万	(補)・委	文部科学省
23	食道癌に対する放射線化学療法感受性における遺伝子多型の役割	鈴木　裕	外科	260万	(補)・委	文部科学省
24	ヒト羊膜芽細胞からの肝細胞株の樹立とその移植、バイオ人工肝臓の作製とその機能評価	田部井 功	外科	70万	(補)・委	文部科学省
25	胃癌におけるICG局注赤外線腹腔鏡観察によるセンチネルリンパ節同定の研究	二村 浩史	外科	170万	(補)・委	文部科学省
26	ヒト分離培養胆道上皮細胞を用いた人工胆道モデルの作成と胆管損傷修復機序の解明	石田　祐一	外科	100万	(補)・委	文部科学省
27	肝疾患における脂質メディエータ、サイトカインおよびＨＧＢＭ-1の意義	石井 雄二	外科	150万	(補)・委	文部科学省
28	胃発癌における塩基除去修復遺伝子（hOGG1, MYH, hMTH1)変異の重要性	小林　克敏	外科	10万	(補)・委	文部科学省
29	迷走神経温存術式の臨床的意義に関するランダム化比較同等性試験	篠原　寿彦	外科	190万	(補)・委	文部科学省

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
30	二分脊椎の発生病態と予防および総合医療に関する研究	大井　静雄	脳神経外科	1,700万円	補・(委)	厚生労働省　精神神経疾患研究委託費
31	外傷性急性硬膜下血腫実験モデルにおける神経損傷マーカーの検討ー脳腫脹の病態解明ー	沢内　聡	脳神経外科	90万円	(補)・委	文科省　科学研究費
32	脳腫瘍に対する温度可逆性ポリマーを用いたドラッグデリバリーシステムの開発	常喜達裕	脳神経外科	70万円	(補)・委	文科省　科学研究費
33	活性型グリオーマワクチンの開発（免疫賦活型ワクチン誘導法の検討）	赤崎安晴	脳神経外科	220万円	(補)・委	文科省　科学研究費
34	硬組織再建—超小型自動骨延長器の開発とその最適な延長環境の検証—	酒井　新介	形成外科	50万円	(補)・委	文部科学省　科学研究費　若手研究（A）
35	四肢先天異常の解明—マウス全胚培養への遺伝子導入—	西岡　弘記	形成外科	80万円	(補)・委	文部科学省　科学研究費　若手研究（B）
36	複合組織再生—培養粘膜細胞移植による人工膀胱作成—	森　克哉	形成外科	50万円	(補)・委	文部科学省　科学研究費　若手研究（B）
37	遺伝子解析による四肢先天異常・頭蓋骨早期癒合症の解明	田中　誠児	形成外科	200万円	(補)・委	文部科学省　科学研究費　若手研究（B）
38	卵巣癌における癌幹細胞マーカーの検索と癌幹細胞分化誘導薬の開発	岡本　愛光	産婦人科	200万円	(補)・委	文部科学省・科学研究費補助金（萌芽研究）
39	microRNAと卵巣癌薬剤耐性機序	矢内原　臨	産婦人科	200万円	(補)・委	第39回（2007年度）内藤記念科学奨励金
40	microRNAと卵巣癌薬剤耐性機序	矢内原　臨	産婦人科	200万円	(補)・委	第39回（2007年度）内藤記念科学奨励金
41	二文脊椎の発生病態と予防及び総合医療に関する研究	田中　忠夫	産婦人科	70万円	補・(委)	厚生労働省　精神・神経疾患研究委託事業
42	抗リン脂質抗体による子宮内胎児発育遅延の病態解明と治療法の検討	梅原　永能	産婦人科	200万円	(補)・委	東京産婦人科医会おぎゃ—献金基金
43	進行卵巣がんにおける化学療法先行治療の確立に関する研究	落合和徳	産婦人科	130万円	(補)・委	厚生労働省　がん臨床研究事業
44	低出力超音波刺激を用いた再建靱帯成熟過程の促進	丸毛　啓史	整形外科	247万円	(補)・委	文部科学省　科学研究費　基盤研究（C）

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
45	新たな骨粗鬆症モデル（骨血管相関モデル）の確立	斎藤　充	整形外科	273万円	補・委	文部科学省　科学研究費　　基盤研究（C）
46	前立腺癌の広範囲プロテオミクス解析による新規血清マーカーの探索	鎌田裕子	泌尿器科	160万円	補・委	文部科学省研究補助金（若手研究（B））
47	神経温存腹腔鏡下前立腺全摘除術における性機能温存に対する、バイポーラタイプ電気刺激電極の有用性の検討	佐々木　裕 頴川　晋	泌尿器科	50万円	補・委	内視鏡医学研究振興財団 研究助成
48	泌尿器癌における癌幹細胞の同定、分析	三木　淳	泌尿器科	50万円	補・委	鈴木泌尿器医学振興財団 研究助成
49	泌尿器癌の癌細胞株樹立、ならびに新しい幹細胞マーカー、分離法を用いた癌幹細胞の同定・解析	三木　淳	泌尿器科	50万円	補・委	日本泌尿器科学会研究助成 平成19年度第2回ヤングリサーチグラント
50	早期前立腺がんにおける根治術後の再発に対する標準的治療法の確立	頴川晋	泌尿器科	30万円	補・委	・　厚生労働科学研究費助成金「がん臨床研究事業」
51	網膜ジストロフィにおける遺伝子異常と疾患表現型の相関研究	林　孝彰	眼科	195万円	補・委	文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 ©
52	弛緩部型中耳真珠腫の発症・進展機序の解明と予防・治療に関する研究	森山　寛	耳鼻咽喉科	130万円	補・委	文部科学省科学研究費補助費
53	人工中耳粘膜移植とドラックデリバリーシステムの融合による新しい鼓室形成術の研究	小島　博己	耳鼻咽喉科	50万円	補・委	文部科学省科学研究費補助費
54	立体内視鏡とステレオナビゲーションの重畳表示画像を用いた鼻副鼻腔手術式の研究	鴻　信義	耳鼻咽喉科	100万円	補・委	文部科学省科学研究費補助費
55	樹状細胞及び腫瘍細胞による融合細胞を用いた腫瘍特異的免疫療法の開発	田中　康広	耳鼻咽喉科	110万円	補・委	文部科学省科学研究費補助費
56	慢性副鼻腔炎における予後不良因子の遺伝子発現制御機構に関する解析と臨床応用	吉川　衛	耳鼻咽喉科	140万円	補・委	文部科学省科学研究費補助費
57	真菌による好酸球性副鼻腔炎の発症とその病態解明に関する研究	松脇　由典	耳鼻咽喉科	110万円	補・委	文部科学省科学研究費補助費
58	音響鼻腔計測法を用いた鼻呼吸障害が睡眠に与える影響についての検討	森脇　宏人	耳鼻咽喉科	60万円	補・委	文部科学省科学研究費補助費
59	培養細胞シートを用いた中耳粘膜再生の試み－移植用シートの開発とその臨床応用－	山本　和央	耳鼻咽喉科	110万円	補・委	文部科学省科学研究費補助費

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
60	脳損傷ラットモデルを用いたキヌレニン酸髄注による神経保護作用に関する研究	安保雅博	リハビリテーション科	130万円	(補)・委	文部科学省　基盤研究　(C)
61	嚥下障害者における咽頭感覚および誘発咳嗽による喀出力の検討	武原格	リハビリテーション科	50万円	(補)・委	文部科学省　基盤研究　(B)
62	近赤外線分光法を用いた前頭葉機能評価の有用性の検討	橋本圭司	リハビリテーション科	100万円	(補)・委	文部科学省　若手研究　(B)
63	加齢、肥満が舌筋に及ぼす影響	齋藤　高	歯科	90万円	(補)・委	文部科学省　科学研究費補助金(若手研究(B))
64	ラベル化造影剤を用いた超音波によるがんの超早期診断システムの研究開発	大川　清（主任研究者）、松浦知和（分担研究者）	生化学第１、臨床検査医学講座（中央検査部）	2,444万7千円（主任研究者一括管理）	(補)・委	厚生労働省（平成19年度厚生科学研究費補助金）
65	13C-グルコース呼気試験によるインスリン抵抗性簡易診断法の開発	松浦知和	臨床検査医学講座（中央検査部）	273万円	(補)・委	文部科学省（平成19年度文部科学省科学研究費、基盤研究(C)）
66	TGF-β活性化反応を標的とした肝疾患の新規診断法、治療・予防法の開発のための臨床研究	松浦知和	臨床検査医学講座（中央検査部）	1,176万円	補・(委)	独立行政法人・医薬基盤研究所（平成19年度保健医療分野における基礎研究推進事業）
67	てんかんの合併障害に対する治療の標準化に関する研究	須江洋成	中央検査部	70万円	補・(委)	厚生労働省精神・神経疾患研究委託費
68	肺高血圧におけるニューパラダイムの構築と治療開発の戦略	上園　晶一	麻酔部	130万円	(補)・委	文部科学省　科学研究費　基盤研究（C）
69	がんの診断治療用光学機器の開発	貝瀬　満	内視鏡科	180万円	(補)・委	厚生労働省がん研究助成金
70	食道腺癌の高危険群の同定および予防介入試験に関する研究	貝瀬　満	内視鏡科	20万円	(補)・委	厚生労働省がん研究助成金
71	拡大内視鏡による消化器がんの早期診断法の確立に関する研究	郷田 憲一	内視鏡科	150万円	(補)・委	厚生労働省がん研究助成金

注）1. 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2. 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
3. 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で補助元又は委託元を記入すること。

(様式11)

2. 論文発表等の実績

No	雑誌名	題 名	発表者氏名	所属部門
1	J Gastroen Hepatol 2007；22(5)：658-662.	Examination of normal intestine using confocal endomicroscopy.	Odagi I, Kato T, Tajiri H.	消化器・肝臓内科
2	Malden：Blackwell Publishing Limited, 2007：104-120.	Magnifying endoscopy with NBI in the diagnosis of superficial gastric neoplasia and its application for ESD.	Kaise M, Tajiri H.	消化器・肝臓内科
3	Dig Endosc 2007；19(Suppl.1)：S174-S179.	What do we see in the endoscopy world in 10 years' time?	Tajiri H.	消化器・肝臓内科
4	Endoscopy 2007；39(9)：779-783.	Clinical outcome after endoscopic mucosal resection for esophageal squamous cell carcinoma invading the muscularis mucosae - a multicenter retrospective cohort study.	Katada C, Muto M, Tajiri H,	消化器・肝臓内科
5	Endoscopy 2007；39(11)：937-941.	Autofluorescence endoscopy versus conventional white light endoscopy for the detection of superficial gastric neoplasia: A prospective comparative study.	Kato M, Kaise M, Tajiri H.	消化器・肝臓内科
6	Proc Jpn Acad, Ser B 2007；83(8)：248-255.	Autofluorescence endoscopy for the gastrointestinal tract.	Tajiri H.	消化器・肝臓内科
7	Arch Immunol Ther Exp 2007；55(5)：281-287.	Dendritic/tumor fusion cell-based vaccination against cancer.	Koido S, Tajiri H.	消化器・肝臓内科
8	J Immunol 2007；179(7)：4874-4883.	Synergistic induction of antigen-specific CTL by fusions of TLR-stimulated dendritic cells and heat-stressed tumor cells.	Koido S, Tajiri H.	消化器・肝臓内科
9	Pre Symptomatic Medicine and Anti aging 2007; 16: 110-4.	Clinical utility of 123I-metaiodobenzylguanidine myocardial scintigraphy in cases of idiopathic Parkinson's disease, autosomal recessive juvenile parkinsonism, multiple system atrophy, and dementia with Lewy bodies.	Suzuki M, Hashimoto M, Ito Y, Ogi S, Oka H, Kurita A, Honda H, Matsui K, Kawaguchi S, Inoue K.	神経内科
10	Progress in Medicine 2008; 28: 179.	Cardiac sympathetic denervation correlates with bradykinesia in Parkinson's disease.	Suzuki M, Urashima M, Hashimoto M, Inoue K.	神経内科
11	Neuroscience 2007; 150: 905-14.	Activity-dependent reorganization of local circuitry in the developing visceral sensory system.	Yoshioka M, Kawai Y.	神経内科

No	雑誌名	題 名	発表者氏名	所属部門
12	Neuroreport 2008; 19: 145-150.	Presynaptic and postsynaptic nigrostriatal dopaminergic functions in multiple system atrophy.	Hashimoto M, Kawasaki K, Suzuki M, Mitani K, Murayama S, Mishina M, Oda K, Kimura Y, Ishiwata K, Ishi K, Inoue K.	神経内科
13	Geriatr Gerontol Int 2007; 7: 124-30.	Correlation between each task of Mini-Mental State Examination and regional glucose hypometabolism in at-rest Alzheimer's disease patients.	Mishina M, Ishii K, Kitamura S, Suzuki M, Mitani K, Kobayashi S, Ishiwata K, Katayama Y.	神経内科
14	神経治療 2008; 25: 47-50.	脊髄小脳変性症に対するtaltirelin hydrateの有用性：指tappingを用いた検討.	持尾聰一郎，豊田千純子，磯部建夫，村上善勇，関根威，岡尚省，佐藤浩則，栗田　正	神経内科
15	難病と在宅ケア 2008; 13: 41-3.	食事療法　半固形化栄養剤の注入方法.	谷口洋, 近藤きよ美.	神経内科
16	Contrib Nephrol 2007; 157: 114－9.	Prospective　trial of combined therapy with heparin/warfarin and renin-angiotensin system inhibitors in progressive IgA nephropathy.	Ishii T.	腎臓・高血圧内科
17	Nephrol Dial Transplant 2007 ; 22 (5): 1407-12.	Effect of repeated intravenous iron administration in haemodialysis patients on serum 8-hydroxy-2'-deoxyguanosine levels.	Maruyama Y.	腎臓・高血圧内科
18	Ther Apher Dial 2007; 11 (4): 301-5.	Relationship between the -374T/A receptor of advanced glycation end products gene polymorphism and peritoneal solute transport status at the initiation of peritoneal dialysis.	Maruyama Y.	腎臓・高血圧内科
19	Blood Purif 2007; 25: 274-9.	Dialyzable uremic solutes contribute to enhanced oxidation of serum albumin in regular hemodialysis patients.	Terawaki H.	腎臓・高血圧内科
20	Perit Dial Int 2007; 27: 702-6.	Transluminal replacement of displaced peritoneal catheter using a special ""alpla-replacer"" guidewire: Effectiveness and limitations.	Terawaki H.	腎臓・高血圧内科
21	2008; 19: 685-94.	Bmp in podocytes is essential for normal glomerular capillary formation. J Am Soc Nephrol	Ueda H.	腎臓・高血圧内科
22	Am J Transplant 2007; 7: 1954-60.	Glomerular expression of plasmalemmal vesicle associated protein-1 in patients with transplant glomerulopathy.	Yamamoto I.	腎臓・高血圧内科

No	雑誌名	題 名	発表者氏名	所属部門
23	Clin Nephrol 2008; 69: 121-6.	Serum beta2 microglobulin (beta2MG) level is a potential predictor for encapsulating peritoneal sclerosis (EPS) in peritoneal dialysis patients.	Yokoyama K.	腎臓・高血圧内科
24	Circulation Journal 2007；71：753-60	Segmental plimonary vein autrum isolation using the "Large-size" lasso catheter in patients with atrial fibrillation.	Yamane T, Date T, Kanzaki Y, Inada K, Matsuo S, Shibayama K, Miyanaga S, Miyazaki H, Sugimoto K, Mochizuki S.	循環器内科
25	Progress medicine別刷	心房細動の非薬物治療－肺静脈の電気整理とカテーテルアブレーション－ 2007；27：73-80	山根禎一	循環器内科
26	Heart View別刷	心房/肺静脈の病理と画像診断　2007；11：13-9	山根禎一	循環器内科
27	Cardiac Practice	心房細動アブレーションのアプローチ法と治療成績　2008；19：51-7	山根禎一	循環器内科
28	循環器	肺静脈の電気生理学的特徴　2008；63：252-9	山根禎一	循環器内科
29	J Cardiovasc Electrophysiol.　2007；18：676-7	Left atrial "mitral isthmus" block after radiofrequency ablation?	Matsuo S, Jaïs P, Hocini M, O'Neill MD, Kodali S, Arantes L, Knecht S, Lim KT, Klein GJ, Clémenty J, Haïssaguerre M. Hôpital Cardiologique du Haut-Lévêque, Bordeaux.	循環器内科
30	Heart Rhythm.　2007；4：1461-3	Ablation of chronic atrial fibrillation.	Matsuo S, Lim KT, Haissaguerre M. Hôpital Cardiologique du Haut-Lévêque, Bordeaux.	循環器内科
31	J Cardiovasc Electrophysiol.　2007；18：889-91	Conversion of atrial fibrillation during pulmonary vein isolation: time to stop and have a rest?	Matsuo S, Veenhuyzen GD, Arantes L, Lim KT, Jaïs P, Haïssaguerre M. Hôpital Cardiologique du Haut-Lévêque, Bordeaux.	循環器内科

No	雑誌名	題 名	発表者氏名	所属部門
32	J Cardiovasc Electrophysiol. 2007 ; 18 : 704-8	Reduction of AF recurrence after pulmonary vein isolation by eliminating ATP-induced transient venous re-conduction.	Matsuo S, Yamane T, Date T, Inada K, Kanzaki Y, Tokuda M, Shibayama K, Miyanaga S, Miyazaki H, Sugimoto K, Mochizuki S. Jikei University School of Medicine, Tokyo	循環器内科
33	Int J Hematol. 2007 May;85(4):350-3.	Pseudo-Gaucher cell proliferation associated with myelodysplastic syndrome.	Saito T, Usui N, Asai O, Dobashi N, Ida H, Kawakami M, Yano S, Osawa H, Takei Y, Takahara S, et al.	腫瘍・血液内科
34	Chemotherapy. 2007;53(5):378-82. Epub 2007 Sep 3.	Successful preoperative chemotherapy with S-1 plus low-dose cisplatin for advanced gastric cancer with synchronous liver metastases: report of 2 cases.	Takahashi N, Nimura H, Aoki H, Koyama T, Mitsumori N, Aiba K, Kashiwagi H, Yanaga K.	腫瘍・血液内科
35	J Infect Chemother. 2007 Dec;13(6):426-8. Epub 2007 Dec 25.	Elevated serum levels of human matrix metalloproteinase-9 (MMP-9) during the induction of peripheral blood	Saito T, Usui N, Asai O, Dobashi N, Yano S, Osawa H, Takei Y, Takahara S, Ogasawara Y, Otsubo H, et al.	腫瘍・血液内科
36	Rinsho Ketsueki. 2007 Dec;48(12):1559-62.	Pseudoleukocytosis and pseudothrombocytosis caused by fragmentation of leukemic cells in tumor lysis syndrome	Hagino T, Kaito K, Asai O, Dobashi N, Yano S, Takei Y, Sugiyama K, Saito T, Okawa Y, Aiba K, Usui N.	腫瘍・血液内科
37	Anticancer Res. 2007 May-Jun;27(3B):1423-30.	MLF1-interacting protein is mainly localized in nucleolus through N-terminal bipartite nuclear localization signal.	Suzuki H, Arakawa Y, Ito M, Saito S, Takeda N, Yamada H, Horiguchi-Yamada J.	腫瘍・血液内科
38	Leuk Res. 2007 Nov;31(11):1537-43.	Segregation of megakaryocytic or erythroid cells from a megakaryocytic leukemia cell line (JAS-R) by adhesion during culture.	Yamada H, Sekikawa T, Iwase S, Arakawa Y, Suzuki H, Agawa M, Akiyama M, Takeda N, Horiguchi-Yamada J.	腫瘍・血液内科
39	J Am Geriatr Soc. 2007 Jul;55(7):1142-4.	Tumor hypoxia imaging with [F-18] fluoronitroimidazole in non-small-cell lung cancer	Yasuda H, Nakayama K, et al.	呼吸器内科

No	雑誌名	題 名	発表者氏名	所属部門
40	Ann Nucl Med. 2007 Feb;21(2):101-7.	Initial evaluation of dynamic human imaging using 18F-FRP170 as a new PET tracer for imaging hypoxia.	Kaneta T, Nakayama K, et al.	呼吸器内科
41	Nippon Rinsho. 2007 Apr;65(4):734-9.	[Treatment and prevention of COPD exacerbation]	Yamaya M, Nakayama K. et al.	呼吸器内科
42	Br J Pharmacol. 2007 Mar;150(6):702-10.	Hochu-ekki-to inhibits rhinovirus infection in human tracheal epithelial cells.	Yamaya M, Nakayama K, et al.	呼吸器内科
43	Cancer Ther 5: 451-456, 2007.	Partial response by nitroglycerin plus amrubicin regimen in patients with refractory and recurrent advanced non-small cell lung cancer who had received at least third-line chemotherapy: Case report.	Yasuda H, Nakayama K, et al.	呼吸器内科
44	J Clin Pathol 60:916-20, 2007	Gene transfer of soluble transforming growth factor type II receptor by in vivo electroporation attenuates lung injury and fibrosis.	Yamada M, Kuwano K, et al.	呼吸器内科
45	Cell Mol Immunol 4:419-29, 2007.	Epithelial cell apoptosis and lung remodeling.	Kuwano K	呼吸器内科
46	The Lung perspectives 15:414-418, 2007	間質性肺炎をめぐる最近の話題　レドックス制御	桑野和善	呼吸器内科
47	Anticancer Res. 2007 May-Jun;27(3B):1423-30.	MLF1-interacting protein is mainly localized in nucleolus through N-terminal biparticle nucleolar localization signal.	Suzuki H, Arakawa Y, Ito M, Saito S, Takeda N, Yamada H, Horiguchi-Yamada J.	総合診療部
48	Leuk Res. 2007 Nov;31(11):1537-43. Epub 2007 Mar 26	Segregation of megakaryocytic or erythroid cells from a megakaryocytic leukemia cell line (JAS-R) by adhesion during culture.	Yamada H, Sekikawa T, Iwase S, Arakawa Y, Suzuki H, et al.	総合診療部
49	World J Gastroenterol. 2007 Jun 7;13(21):2913-7	Useful detection of CD147 (EMMPRIN) for pathological diagnosis of early hepatocellular carcinoma in needle biopsy samples.	Mamori S, Nagatsuma K, Matsuura T, Ohkawa K, Hano H, et al.	総合診療部
50	Cerebrovasc Dis. 2007;24:27-34.	Does Long-Term Continuous Transcranial Doppler Monitoring Require a Pause for Safer Use?	Nakagawa K, Ishibashi T, Matsushima M, Tanifuji Y, Amaki Y, Furuhata, H.	総合診療部
51	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. 2007 Feb;245(2):288-92.	Endothelial nitric oxide synthase gene polymorphisms in non-arteritic anterior ischemic optic neuropathy.	Sakai T, Shikishima K, Matsushima M, Kitahara K.	総合診療部
52	Ophthalmology. 2007 May;114(5):949-56.	Comparison of standard automated perimetry with matrix frequency-doubling technology in patients with resolved optic neuritis.	Sakai T, Matsushima M, Shikishima K, Kitahara K.	総合診療部

No	雑誌名	題 名	発表者氏名	所属部門
53	脊髄外科 2007;11月　21(2)： 123-128	キアリ1型奇形に伴う脊髄空洞症　治療効果に関与する因子の検討	福住曜子, 谷 諭, 磯島晃, 長島弘泰, 阿部俊昭, 松島雅人	総合診療部
54	東京慈恵会医科大学雑誌. 2007; 122: 295-304.	Fabry病の心病変に対する酵素補充療法の効果. 男女間での臨床経過の比較.	藤原優子, 大橋十也, 小林正久, 衛藤義勝. 他	小児科
55	Mol Genet Metab. 2007; 92: 271-3.	Influence of antibody formation on reduction of globotriaosylceramide (GL-3) in urine from Fabry patients during agalsidase beta therapy.	Ohashi T, Sakuma M, Kitagawa T, Eto Y, et al .	小児科
56	J Pediatr Endocrinol Metab. 2007; 20: 449-54.	Right testicular necrosis and left vanishing testis in a neonate.	Miyata I, Yoshikawa H, Ikemoto M, Eto Y, et al .	小児科
57	Mol. Genet. Metab. 2008.	Reduced a-Gal A enzyme activity in Fabry fibroblast cells and Fabry mice tissues induced by serum from antibody positive patients with Fabry disease.	Ohashi T, Iizuka S, Ida H, Eto Y, et al	小児科
58	J Inherit Metab Dis. 2008.	Clinical manifestations and natural history of Japanese heterozygous females with Fabry disease.	Kobayashi M, Ohashi T, Sakuma M, et al	小児科
59	日本医事新報.日本医事新報社. 2008; 4371：95-6.	質疑応答『ムコ多糖症の概要と治療』	衛藤義勝.	小児科
60	脳と発達.　2007; 39: 87-92.	脳治療は可能か？遺伝性脳変性疾患の治療の最近の進歩.	衛藤義勝.	小児科
61	Amsterdam. Academic Press. 2007:205-14.	Cell Therapy for Peripheral Diseases and Reconstructive aplications:Transplantation for lysosomal storage diesase. Halberstadt C, Emerich D ed. Cellular transplantation from laboratory to clinic.Cellular transplantation.	Ohashi T, Eto Y.	小児科
62	Surg Endosc 2007; 21: 427-430.	Prediction of recurrence after laparoscopic fundoplication for erosive reflux esophagitis based on AFP classification.	Omura N, Kashiwagi H, Yano F, Tuboi K, Ishibashi Y, Kawasaki N, Suzuki Y, Mitsumori N, Urashima M, Yanaga K:	外科
63	Gastric Cancer 2007; 10: 117–122.	Validity of modified gastrectomy combined with sentinel node navigation surgery for early gastric cancer.	Ohdaira H, Nimura H, Mitsumori N, Takahashi N, Kashiwagi H, Yanaga K:	外科

No	雑誌名	題 名	発表者氏名	所属部門
64	World J Surg 2007; 31:1602-1605.	Laparoscopic intragastric full-thickness excision (LIFE) of posterior gastric lesions under flexible endoscopic control: a feasibility study.	Hoya Y, Yamashita M, Inagaki T, Yanaga K:	外科
65	Surg Endosc 2007 ; 21 : 2034-2038.	Successful new method of extra-corporeal percutaneous endoscopic gastrostomy (E-PEG).	Toyama Y, Usuba T, Son K, Yoshida S, Miyake R, Ito R, Tsuboi K, Kashiwagi H, Tajiri H, Yanaga K:	外科
66	Am J Surg 2008; 195: 115-118.	Safe and quick distal pancreatectomy using a staggered six-row stapler.	Misawa T, Shiba H, Usuba T, Nojiri T, Uwagawa T, Ishida Y, Ishii Y, Yanaga K:	外科
67	日本外科学会誌 108	重症虚血肢に対する最新の診断と治療—治療法の実際—	墨 誠,大木隆生	外科
68	Rutherford 7th edition	Endovasculartherapy	大木隆生,墨 誠	外科
69	心臓血管外科手術テクニック	ステントグラフトを用いた腹部大動脈瘤手術	金岡祐司,墨 誠,大木隆生	外科
70	Annual Review ２００９	胸部、胸腹部大動脈瘤に対するステントグラフト治療	金岡祐司,大木隆生	外科
71	Journal of Vascular Surgery	Regarding "Endoleaks after endovascular aneurysm repair lead to nonuniform intra-aneurysm sac pressure"	Takao Ohki	外科
72	Endovascular Today	Pros and Cons of IVUS Imaging for Endovascular Procedures	Takao Ohki	外科
73	月刊新医療	手術室にFPD搭載X線装置を導入、最先端の血管内治療を推進	大木 隆生	外科
74	J Neurosurg. .107: 1244-1247	New Transparent Clear Peel-away Sheath for Various Neuroendoscopic procedures: Technical Note.	Oi S, Abdullah SH	脳神経外科
75	Neurosurgery 60:77-84	Neuronavigational Endoscopic Endonasal Sellar and Parasellr Surgery Using a 2-mm-Diameter Lens Rigid Rod Endoscope : A Cadaver Study.	DiRocco F, Oi S, Samii A, Paterno V, Fewigl G, Ludemann W, Samii M	脳神経外科
76	Childs Nerv Syst. 23(5):521-526	Risk reduction of subdural collections following endoscopic third ventriculostomy.	Kurschel S, Ono S, Oi S	脳神経外科

No	雑誌名	題 名	発表者氏名	所属部門
77	Childs Nerv Syst. 23(8):891-895	Management of vestibular schwannomas in young patients-comparison of clinical features and outcome with adult patients.	Mirzayan MJ, Gerganov VM, Ludemann W, Oi S, Samii M, Samii A	脳神経外科
78	J. Neurosurg (2 Suppl Pediatrics) 107: 159-162	Traumatic subacute subdural effusion in the posterior fossa associated with secondary acute hydrocephalus in a neonate – Case report –	Mori H, Ohashi H, Nonaka Y, Oi S	脳神経外科
79	Brain Dev. 2008 Jun;30(6):381-6. Epub 2007 Dec	Diagnosis of congenital hydrocephalus and delivery of its patients in Japan. 27.	Moritake K, Nagai H, Nagasako N, Yamasaki M, Oi S,Hata T	脳神経外科
80	Childs Nerv Syst. 2008 Jun;24(6):717-22. Epub 2008 Jan 11.	Ventricular anatomy of hydrocephalus associated with myeloschisis and endoscopic third ventriculostomy.	Mori H, Oi S, Nonaka Y, Tamogami R, Muroi A	脳神経外科
81	脳神経外科速報　17（９）：1090－1095,2007	低容量temozolomideおよび放射線併用療法後にpneumocysists carinii肺炎を合併した神経膠芽腫の１剖検例.	赤崎安晴,土橋久士、田母神令、宮崎芳彰、坂田昭彦,金綱友木子、望月英明、高野晋吾、阿部俊昭	脳神経外科
82	脳神経外科　35（7）：665-671,2007	頭部外傷データバンクにおける急性硬膜下血腫とびまん性脳損傷の受傷機転と病態の比較、検討.	沢内聡、村上成之、小川武希、阿部俊昭	脳神経外科
83	日本交通科学協議会誌　7（１）：24－28、2007	交通事故による急性硬膜下血腫：頭部外傷データバンク1002例の検討.	沢内聡、村上成之、小川武希、阿部俊昭	脳神経外科
84	J Artif Organs　2007 ;10: 206-211	Patient–prosthesis mismatch may be irrelevant after aortic valve replacement with the 19-mm Perimount pericardial bioprosthesis in patients aged 65 years or older.	Sakamoto Y, Hashimoto K, Okuyama H, Sasaki T, Takakura H, Onoguchi K.	心臓外科
85	Gen Thorac Cardiovasc Surg　2008;56:63-7	Mitral valve reconstruction: long-term results of triangular resection for degenerative prolapse.	Sakamoto Y, Hashimoto K, Okuyama H, Ishii S, Kawada N, Inoue T, Yamamoto K, Morita K.	心臓外科
86	慈恵医大誌　2007 ;122: 195-200	逆行性脳潅流法を用いた弓部大動脈全置換術の検討　–術式の変遷と治療成績-	長沼宏邦.	心臓外科
87	慈恵医大誌　2007；122：185-94	肺高血圧を合併した先天性心疾患に対する開心術後のModified Ultrafiltraitionの有用性.	松村洋高、森田紀代造、木ノ内勝士、中村 賢、香川 洋.	心臓外科

No	雑誌名	題 名	発表者氏名	所属部門
88	Oncol Rep.2007；17：731-5	Association of extracellular matrix metalloproteinase inducer in endometrial carcinoma with patient outcomes and clinicopathologenesis using monoclonal antibody 12C3.	Ueda K, Yamada K, Urashima M, Ishibashi Y, Shirai M, Nikaido T, Takahashi H, Okamoto A, Saito M, Yasuda M, Ohkawa K, Tanaka T.	産婦人科
89	Oncol Rep.2007；17：1333-9	Increased synthesis of indoleamine-2,3-dioxygenase protein is positively associated with impaired survival in patients with serous-type, but not with other types of, ovarian cancer.	Takao M, Okamoto A, Nikaido T, Urashima M, Takakura S, Saito M, Saito M, Okamoto S, Takikawa O, Sasaki H, Yasuda M, Ochiai K, Tanaka T.	産婦人科
90	Oncol Rep.2007；17：731-5	Association of extracellular matrix metalloproteinase inducer in endometrial carcinoma with patient outcomes and clinicopathologenesis using monoclonal antibody 12C3.	Ueda K, Yamada K,Okamoto A,Tanaka T,et al.	産婦人科
91	Oncol Rep.2007；17：1333-9	Increased synthesis of indoleamine-2,3-dioxygenase protein is positively associated with impaired survival in patients with serous-type, but not with other types of, ovarian cancer.	Takao M, Okamoto A,Tanaka T,et al.	産婦人科
92	日本産科婦人科内視鏡学会雑誌23巻1号 Page257-260(2007.12)	Laparoscopic ovarian drillingの対象症例の選択について	野澤幸代ら	産婦人科
93	日本産科婦人科内視鏡学会雑誌23巻1号 Page252-256(2007.12)	子宮内膜症性不妊症における腹腔鏡下手術の治療予後　特に卵管癒着スコアと妊娠率の関連性	高橋絵理ら	産婦人科
94	日本産科婦人科内視鏡学会雑誌23巻1号 Page248-251(2007.12) □	卵管病変に対する子宮卵管造影検査と腹腔鏡検査所見の比較	遠藤尚江ら	産婦人科
95	日本産科婦人科学会東京地方部会会誌(0288-5751)56巻4号 Page477-480(2007.12)	子宮内外同時妊娠との鑑別を要した卵巣出血の1例	野澤幸代ら	産婦人科
96	産婦人科治療(0558-471X)95巻5号 Page462-467(2007.11)	【産婦人科に必要な乳腺疾患の知識　良性疾患と乳がんの鑑別診断を中心に】 わが国におけるホルモン補充療法と乳癌発生リスク	落合和徳, 新美茂樹	産婦人科
97	日本婦人科腫瘍学会雑誌(1347-8559)25巻3号 Page220-221(2007.06)	婦人科領域における終末期医療	新美茂樹	産婦人科

No	雑誌名	題 名	発表者氏名	所属部門
98	日本婦人科腫瘍学会雑誌(1347-8559)25巻3号 Page200(2007.06)	進行子宮頸癌の治療-CCRT 子宮頸癌、同時化学放射線療法(CCRT)症例におけるシスプラチン40mg/m2のfeasibility	田部宏ら	産婦人科
99	臨床研修プラクティス(1349-0524)4巻5号 Page90-95(2007.04)	婦人科疾患に強くなる　症候論からみた婦人科鑑別診断	新美茂樹	産婦人科
100	日本産科婦人科学会関東連合地方部会会報(0285-8096)44巻2号 Page227(2007.05)	婦人科悪性腫瘍の化学療法後に発症した骨髄異形成症候群の2例	楠原淳子ら	産婦人科
101	日本産科婦人科学会東京地方部会会誌(0288-5751)56巻2号 Page199-202(2007.06)	術前細胞診を契機に発見された正常大卵巣癌の1例	楠原淳子ら	産婦人科
102	Int Surg. 2007 Jul-Aug;92(4):202-8.	Irinotecan hydrochloride (CPT-11) and cisplatin as first-line chemotherapy after initial surgery for ovarian clear cell adenocarcinoma.	Takakura S et al.	産婦人科
103	日本産科婦人科内視鏡学会雑誌23(1)p248-251,2008	卵管病変に対する子宮卵管造影検査と腹腔鏡検査所見の比較	遠藤尚江	産婦人科
104	日本産科婦人科内視鏡学会雑誌23(1)p252-256,2008	子宮内膜症性不妊症における腹腔鏡下手術の治療予後：特に卵管癒着スコアと妊娠率の関連性	高橋絵理	産婦人科
105	日本産科婦人科内視鏡学会雑誌23(1)p257-260,2008	Laparoscopic ovarian drillingの対象症例の選択について	野澤幸代	産婦人科
106	周産期医学	周産期の症候・診断・治療ナビ　産科編 症候ナビゲーション腹痛・腹緊　妊娠後期の腹痛・腹緊（解説）37；36-41.2007	大浦訓章・竹中将貴・上出泰山・内野麻美子・田中忠夫	産婦人科
107	周産期医学	周産期の症候・診断・治療ナビ　産科編 症候ナビゲーション腹痛・腹緊　妊娠中期の腹痛・腹緊（解説）37.31-35.2007	大浦訓章・竹中将貴・上出泰山・内野麻美子・田中忠夫	産婦人科
108	周産期医学	周産期の症候・診断・治療ナビ　産科編 症候ナビゲーション腹痛・腹緊　妊娠初期の腹痛・腹緊（解説）37；27-30.2007	大浦訓章・竹中将貴・上出泰山・内野麻美子・田中忠夫	産婦人科
109	周産期医学	後期臨床研修医のための基本手技　羊水除去・羊水注入37；6；725-32.2007	大浦訓章・内野麻美子・上出泰山・川口里恵・和田誠司・杉浦健太郎・恩田威一・田中忠夫	産婦人科
110	産科と婦人科	周産期　妊娠初期のマイナートラブル（つわり、便秘などの対処法）74；11；1312-18；2007	大浦訓章・竹中将貴・上出泰山・内野麻美子・落合和徳・田中忠夫	産婦人科
111	Obstet Gynecol. 2007; 109(2 Pt2): 537-40	Adjuvant chemotherapy in a pregnant woman with endodermal sinus tumor of the ovary.	Makoto Motegi, Satoshi Takakura, Hirokuni Takano, Tadao Tanaka, and Kazunori Ochiai.	産婦人科

No	雑誌名	題 名	発表者氏名	所属部門
112	Oncol Rep 2007; 17(6): 1333-1339	Increased synthesis of indoleamine-2,3-dioxygenase protein is positively associated with impaired survival in patients with serous-type, but not with other types of, ovarian cancer.	Miho Takao, Aikou Okamoto, Takashi Nikaido, Mitsuyoshi Urashima, Satoshi Takakura, Misato Saito, Motoaki Saito, Sanshiro Okamoto, Osamu Takikawa, Hiroshi Sasaki, Makoto Yasuda, Kazunori Ochiai, Tadao Tanaka.	産婦人科
113	J Clin Oncol 2007; 25(22): 3302-3306	PIEPOC: a new prognostic index for advanced epithelial ovarian cancer—Japan Multinational Trial Organization OC01-01.	Satoshi Teramukai, Kazunori Ochiai, Harue Tada, and Masanori Fukushima.	産婦人科
114	Int Surg 2007; 92:202-208	Irinotecan hydrochloride (CPT-11) and cisplatin as first-line chemotherapy after initial surgery for ovarian clear cell adenocarcinoma	Satoshi Takakura, Motoaki Saito, Kazu Ueda, Makoto Motegi, Miho Takao, Kyosuke Yamada, Aikou Okamoto, Shigeki Niimi, Hiroshi Sasaki, Tadao Tanaka, Kaunori Ochiai.	産婦人科
115	Int J Clin Oncol 2008; 13:8-11	No increase of breast cancer incidence in Japanese women who received hormone replacement therapy: overview of a case-control study of breast cancer risk in Japan.	Toshiaki Saeki, Muneo Sano, Yoshifumi Komoike, Hiroshi Sonoo, Hideo Honjyo, Kazunori Ochiai, Tadashi Kobayashi, Kenjiro Aogi, Nobuaki Sato, Seiji Sawai, Yoshio Miyoshi, Masahiro Takeuchi, Shigemitsu Takashima.	産婦人科
116	Molecular Therapy	Lentiviral Vectors with CMV or MHCII Promoters Administered In Vivo: Immune Reactivity Versus Persistence of Expression	Kimura T	泌尿器科

No	雑誌名	題 名	発表者氏名	所属部門
117	泌尿器科紀要	腎温存手術後の患側残存腎機能評価における術前99mTc- MAG3腎動態シンチグラフィの有用性	山田裕紀，他	泌尿器科
118	Prostate Cancer and Prostatic Disease	Prostatic-specifinc antigen adjusted for total prostatic tumor volume as a predictor for outcome after radical prostatectomy	Hayashi N, et al	泌尿器科
119	Cancer Research	Identification of Putative Stem Cell Markers, CD133 and CXCR4, in Human Telomerase Reverse Transcriptase-Immortalized Primary Nonmalignant and Malignant Tumor-Derived Human Prostate Epithelial Cell Lines and in Prostate Cancer Specimens	Miki J, et al	泌尿器科
120	European Journal of Ophthalmology	Dominant optic atrophy in a Japanese family with OPA1 frameshift mutation (V942fsX966)	Hayashi T. et al.	眼科
121	Neuro-Ophthalmology	Functional Distribution in Area V1 Revealed by Spatially Uniform Stimuli	Horiguchi H. et al.	眼科
122	Ophthalmology	Comparison of standard automated perimetry with matrix frequency - doubling technology in patients with resolved optic neuritis	Sakai T et al.	眼科
123	Auris Nasus Larynx	Middle ear hemangioma：A case report.	Kojima H,Yaguchi Y,Moriyama H	耳鼻咽喉科
124	日本耳鼻咽喉科学会会報111巻　2号５６－５７	錐体部真珠腫の臨床像について　－当科における術式および治療実績の検討－	小島博己、田中康広、宮崎日出海、谷口雄一郎、村上信五、森山寛	耳鼻咽喉科
125	耳鼻咽喉科展望51巻１号33－42	最近の中耳結核の検討	小島博己、山本和央、力武正浩　、山口展正、田中康広	耳鼻咽喉科
126	act otolaryngol.2007;127(10) 1238-44	Middle ear mucosa regeneration by grafting of artificial mucosa.	Yaguchi Y,Wada K,Uchimizu H,Tanaka Y,Kojima H,Moriyama H	耳鼻咽喉科
127	acta otolaryngologica.2007; 12(10):1031-7	effects of imflammatory changes in the middle ear mucosa on middle ear total presure	Uchimizu H	耳鼻咽喉科
128	耳鼻咽喉科展望51巻１号26－32	喘息を合併する慢性副鼻腔炎におけるロイコトリエンの関与について	吉村剛、吉川衛、鴻信義、春名眞一、森山寛	耳鼻咽喉科

No	雑誌名	題 名	発表者氏名	所属部門
129	耳鼻咽喉科展望50巻3号157－163	花粉飛散量による特異的ＩｇＥ値の変動スギ特異的減感作療法施行症例における検討	吉村剛、野原修、大森剛哉、宇井直也、葉山貴司、小島純也、石井彩子、永倉仁史、小澤仁、今井透、遠藤朝彦	耳鼻咽喉科
130	Am J Phys Med Rehabil. 2007. 86. 861-4	Successful rehabilitation after hip fracture to a patient with previous above-elbow amputation.	Horiuchi H, Hashimoto K, Uruma G, Fujita G, Soga T, Iizuka H, Miyano S, Abo M.	リハビリテーション科
131	J Rehabil Med. 2007. 39. 418-20	Tensor magnetic resonance imaging in a case of mild traumatic brain injury with lowered verbal intelligence quotient.	Hashimoto K, Okumura A, Shinoda J, Abo M, Nakamura T.	リハビリテーション科
132	Eur J Neurol. 2007. 14. 540-547	Cerebral blood flow in patients with diffuse axonal injury – examination of the easy Z-score imaging system utility.	Okamoto T, Hashimoto K, Aoki S, Ohashi M.	リハビリテーション科
133	Neurorehabil Neural Repair. 2007. 21. 353-357	Ability for basic movement as an early predictor of functioning related to activities of daily living in stroke patients.	Hashimoto K, Higuchi K, Nakayama Y, Abo M.	リハビリテーション科
134	J Rehabil Med. 2007. 39. 185-188	A new procedure for communication with a patient with minimal motor function and fatigability.	Uruma G, Hashimoto K, Onouchi K, Nishio Y, Kurita A, Inoue K.	リハビリテーション科
135	Eur Neurol 2008；59：24-30.	Activation of the prefrontal cortex during the KWCST as measured by 2-channel near-infrared spectroscopy in patients with traumatic brain injury.	Hashimoto K, Uruma G, Abo M.	リハビリテーション科
136	成年後見法研究 2007；4：100-5.	高次脳機能障害の特性と医学的リハビリテーション.	橋本圭司.	リハビリテーション科
137	総合リハ. 2007. 35. 1469-74	回復期リハビリテーション病棟における病棟訓練導入効果について.	後藤杏里，菅原英和，佐々木信幸，宮野佐年.	リハビリテーション科
138	慈恵医大誌. 2007. 122. 313-317	終末期乳癌によるリンパ浮腫に対して緩和的作業療法を施行した1症例.	吉澤いづみ，日下真理，粳間剛，角田亘，安保雅博.	リハビリテーション科
139	日顎関節会誌 2007；19(2)：177-84.	顎関節症スクリーニングに用いる質問項目の選択とその妥当性検定	杉崎正志,来間恵里，玉井和樹，齋藤高 他	歯科
140	日顎関節会誌 2007；19(3)：233-9.	顎関節症スクリーニング用質問1項目の選定とその妥当性検討	杉崎正志,来間恵里，玉井和樹，齋藤高 他	歯科

No	雑誌名	題 名	発表者氏名	所属部門
141	歯薬物療 2007；26(2)：44-54.	顎関節の痛みに対する消炎鎮痛薬の効果判定基準	覚道健治(大歯大), 杉崎正志, 他	歯科
142	日顎関節会誌 2007；19(3)：218-26.	多元的調査結果にみられる有痛顎関節症患者の年代別寄与因子に関する探索的調査	木野孔司(東医歯大), 杉崎正志, , 田辺晴康, 吉田奈穂子, 来間恵里, 他	歯科
143	World J Gastroenterol. 2007 Jun 7;13(21):2913-7.	Useful detection of CD147 (EMMPRIN) for pathological diagnosis of early hepatocellular carcinoma in needle biopsy samples	Mamori S, Nagatsuma K, Matsuura T, Ohkawa K, Hano H, Fukunaga M, Matsushima M, Masui Y, Fushiya N, Onoda H, Searashi Y, Takagi I, Tagiri H.	中央検査部
144	J Membr Biol. 2007 Jun 14;217：115-121	The Functional Interrelationship between Gap Junctions and Fenestrae in Endothelial Cells of the Liver Organoid.	Saito M, Matsuura T, Nagatsuma K, Tanaka K, Maehashi H, Shimizu K, Hataba Y, Kato F, Kashimori I, Tajiri H, Braet F.	中央検査部
145	World J Gastroenterol 13(6): 821-825, 2007	The hepatic sinusoidal endothelial lining and colorectal liver metastasis	Braet F, Nagatsuma K, Saito M, Soon L, Wisse E, Matsuura T	中央検査部
146	J Virol Methods. 148(1-2):174-81, 2008.	Dynamic behavior of hepatitis C virus quasispecies in a long-term culture of the three-dimensional radial-flow bioreactor system	Murakami K, Inoue Y, Hmwe SS, Omata K, Hongo T, Ishii K, Yoshizaki S, Aizaki H, Matsuura T, Shoji I, Miyamura T, Suzuki T.	中央検査部
147	日本臨床検査自動化学会誌 2007; 32: 221-226.	Non-RIA法による4種の血中コルチゾール測定法の比較検討.	阿部正樹, 俵木美幸, 黒沢秀夫, 阿部郁朗, 堂満憲一, 海渡 健.	中央検査部
148	日本臨床微生物学雑誌2007; 17; 8-13	メロペネム, イミペネムの緑膿菌に対するPercent Time Above MIC (%T>MIC)の比較検討 -モンテカルロシミュレーション法を用いた解析-.	若林真理子, 富永健司, 坂本和美, 鶴川治美, 前田沙織, 田村 卓, 阿部郁朗, 海渡 健.	中央検査部

No	雑誌名	題 名	発表者氏名	所属部門
149	Intensive Care Med. 2007;33:1563-70	Continuous renal replacement therapy: A worldwide practice survey: The Beginning and Ending Supportive Therapy for the Kidney (B.E.S.T. Kidney) Investigators.	Uchino S, Bellomo R, Morimatsu H, et al.	麻酔部
150	Int J Artif Organs. 2007;30:281-9	Patient and kidney survival by dialysis modality in critically ill patients with acute kidney injury.	Uchino S, Bellomo R, Kellum JA, et al.	麻酔部
151	Clin. J. Am. Soc. Nephrol. 2007;2:431–439	Septic Acute Kidney Injury in Critically Ill Patients: Clinical Characteristics and Outcomes.	Sean M. Bagshaw,Uchino S, Bellomo R, et al.	麻酔部
152	Int J Artif Organs. 2007;30:108-17	A pilot study of high-adsorption hemofiltration in human septic shock.	Haase M, Silvester W, Uchino S, et al.	麻酔部
153	エンドトキシン血症救命治療研究会誌 11:209-14,2007	新しいエンドトキシン高感度測定法を用いた臨床試料の測定.	鹿瀬陽一,小幡徹,野村真弓,岡本靖久,岩井健一,斉藤敬太,瀧浪将典.	麻酔部
154	日本集中治療医学会雑誌 14:611-612,2007	RIFLE criteriaにおける尿量の基準の妥当性と有効性に関する検討.	内野滋彦, 森松博史, 上原淳, 間藤卓.	麻酔部
155	Gastrointest Endosc 2007；65(4)：679-83.	Transesophageal mediastinoscopy by submucosal endoscopy with mucosal flap safety valve technique.	Sumiyama K, et al.	内視鏡科
156	Gastrointest Endosc 2007；65(4)：688-94.	Submucosal endoscopy with mucosal flap safety valve.	Sumiyama K, et al.	内視鏡科
157	J Gastroen Hepatol 2007；22(5)：658-662.	Examination of normal intestine using confocal endomicroscopy.	Odagi I, et al.	内視鏡科
158	Gastrointest Endosc 2007；65(7)：1028-34.	Transgastric cholecystectomy: transgastric accessibility to the gallbladder improved with the SEMF method and a novel multibending therapeutic endoscope.	Sumiyama K, et al.	内視鏡科
159	Gastrointest Endosc Clin N Am 2007；17(3)：471-85.	Novel techniques and instrumentation for EMR, ESD, and full-thickness endoscopic luminal resection.	Sumiyama K, et al.	内視鏡科
160	Endoscopy 2007；39(11)：937-941.	Autofluorescence endoscopy versus conventional white light endoscopy for the detection of superficial gastric neoplasia: A prospective comparative study.	Kato M, et al.	内視鏡科
161	Helicobacter 2008；13(1)：35-41.	CpG island hypermethylation of tumor-suppressor genes in H. pylori-infected non-neoplastic gastric mucosa is linked with gastric cancer risk.	Kaise M, et al.	内視鏡科

No	雑誌名	題 名	発表者氏名	所属部門
162	Gastrointest Endosc 2008；67(3)：497-501.	Pilot study of transesophageal endoscopic epicardial coagulation by submucosal endoscopy with the mucosal flap safety valve technique (with videos).	Sumiyama K, et al.	内視鏡科
163	脳神経外科　2007：35(7)；665-671.	頭部外傷データバンクにおける急性硬膜下血腫とびまん性脳損傷の受傷機転と病態の比較，検討	沢内　聡，村上成之，小川武希，阿部俊昭.	救急部
164	早期大腸癌　2008; 12(1): 9-17	【下部消化管非上皮性腫瘍　リンパ系除く】　非上皮性腫瘍の病理診断.	池上雅博，三戸部慈実，小池裕人，二階堂孝，斉藤彰一.	病院病理部
165	Gastroenterological Endoscopy 2007; 49(8): 1827-31	内視鏡的に経過観察し得た胃小細胞癌の1例.	二村浩史，高山澄夫，堤純，青木照明，池上雅博，矢永勝彦.	病院病理部
166	消外 2007; 36(5): 569-79	【消化器癌の外科病理】　胃過形成性ポリープの安易な摘除は回避せよ.	二村浩史，柏木秀幸，三森教雄，荒井吉則，米澤仁，貝瀬満，池上雅博，矢永勝彦.	病院病理部
167	胃と腸　2007; 42(5): 787-94	【消化管の拡大内視鏡観察　2007】　大腸　大腸腫瘍の異型度診断.	斉藤彰一，池上雅博，　他.	病院病理部
168	臨消内科 2008; 23(1): 109-17	【EMRvsESD】拡大内視鏡観察による大腸腫瘍の治療法選択　内視鏡的治療と外科的治療の選択を中心に.	二上敏樹，斉藤彰一，池上雅博，他.	病院病理部
169	胃と腸　2007; 42(5): 683-90	【消化管の拡大内視鏡観察　2007】　咽頭・食道　Barrett粘膜、食道の拡大内視鏡診断　NBI拡大内視鏡による微細粘膜・毛細血管patternの解析.	郷田憲一，田尻久雄，池上雅博，他.	病院病理部
170	臨消内科 2007; 22(10): 1389-96	【消化器臨床医のための病理学　特殊染色を含めて】　特殊染色の盲点.	二階堂孝，中野雅貴，小池裕人，中山順今，野村浩一，池上雅博.	病院病理部
171	産婦人科の実際 2008; 57(3): 573-8	①シリーズで学ぶ最新知識　産婦人科領域の病理診断における免疫組織化学　免疫組織化学の基本.	清川貴子，二階堂孝.	病院病理部
172	Lab Invest 2007; 87(9): 882-92	CD151 dynamics in carcinoma-stroma interaction: integrin expression, adhesion strength and proteplytic activity	Hasegawa M, Nikaido T, et al.	病院病理部
173	Oncol Rep 2007; 17(6): 1333-9	Increased synthesis of indoleamine-2,3-dioxygenase protein is positively associated with impaired survival in patients with serous-+type, but not with the ovarian cancer.	Takao M, Okamoto A, Nikaido T, et al.	病院病理部
174	Am J Pathol 2007; 1170(5): 1473-84	Deficiency of endothelial nitric-oxide synthase confers susceptibility to diabetic nephropathy in nephropathy-resistant inbred mice.	Kanetsuna Y, Takahashi K, Nagata M, Gannon MA, Breyer MD, Harris RC, Takahashi T.	病院病理部

No	雑誌名	題 名	発表者氏名	所属部門
175	Clin Transplant 2007; 21: 40-5	A case of massive kidney graft calcification that developed early in a child recipient with hyperparathyroidism.	Kanetsuna Y, Hisano M, Miura K, Tanaka E, Hattori M, Teraoka S, Yamaguchi Y.	病院病理部

(注) 1. 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を申請の前年に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)

2. 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には主たる発表者の氏名を記入すること。

（様式第 12）

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	院長　森山　寛	
管理担当者氏名 （担当代表者） 事務部長　今出 進章	診療に関する諸記録	診療各科責任者、各病棟・各外来看護師長 放射線部技師長、薬剤部長、他関係部署責任者
	管理運営に関する諸記録	事務部長、薬剤部長、総務部長、大学事務部長 財務部長、他関係部署責任者

			保管場所	分類方法
診療に関する諸記録 手術日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書			院長室 診療部署単位 （診療情報室 各科外来 各病棟 フィルム係他）	科別、入院外来別、年度別、月別患者登録番号順、日付順 （記録の種類により異なる）
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳票		人事課 臨床研修センター 教員・医師人事室	
	高度の医療の提供に実績		診療各科 管理課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績		診療各科 管理課	
	高度の医療の研修の実績		診療各科 管理課	
	閲覧実績		管理課 業務課	
	紹介患者に対する医療提供の実績		診療各科	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿		管理課、業務課、薬剤部	
	確規保則の第状９況条の２３及び第１条の１１各	専任の医療の係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全推進室	東京慈恵会医科大学附属病院医療安全管理指針
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染対策室	東京慈恵会医科大学附属病院感染対策指針
		医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全推進室	東京慈恵会医科大学附属病院医療安全管理指針
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	看護部 （患者相談窓口担当）	東京慈恵会医科大学附属病院医療安全管理指針
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全推進室及び関係各部署	東京慈恵会医科大学附属病院医療安全管理指針
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全推進室	医療安全推進室「委員会」ファイル
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全推進室	医療安全推進室「教育研修」　ファイル

	号に掲げる体制	医療機関における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全推進室	医療安全推進室「管理」ファイル
		院内感染のための指針の策定状況	感染対策室	東京慈恵会医科大学附属病院感染対策指針
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染対策室	感染対策室「感染対策委員会」ファイル
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医療安全推進室、感染対策室	医療安全推進室「教育研修」ファイル
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染対策室	感染対策室ファイル
		医薬品の安全使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	医療安全推進室	東京慈恵会医科大学附属病院医療安全管理指針
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療安全推進室	医療安全推進室「教育研修」ファイル
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療安全推進室	東京慈恵会医科大学附属病院リスクマネジメントマニュアル
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全推進室	「病棟部門・手術室部門」、「外来部門・薬剤部・輸血部等」ファイル
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	医療安全推進室	東京慈恵会医科大学附属病院医療安全管理指針
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全推進室	医療安全推進室「教育研修」ファイル
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部、放射線部、中央検査部、リハビリテーション科	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況（医療機器安全管理責任者書式－3）ファイル
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学部	医療機器に係る安全性情報等（医療機器安全管理責任者書式－4）ファイル

（注）　「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

（様式第13）

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	院長　森山　寛	
閲覧担当者氏名 (担当代表者) 事務部長　今出　進章	診療に関する諸記録	診療各科責任者、各病棟・各外来看護師長 放射線部技師長、薬剤部長、他関係部署責任者
	管理運営に関する諸記録	事務部長、薬剤部長、総務部長、大学事務部長 他関係部署責任者
閲覧の求めに応じる場所	附属病院会議室	

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	4　件
閲覧者別	医師	延	0　件
	歯科医師	延	0　件
	国	延	1　件
	地方公共団体	延	3　件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	48.8 %	算定期間	平成19年4月1日～平成20年3月31日	
算出根拠	A：紹介患者の数			２０，５３３人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数			１１，８００人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数			４，５６９人
	D：初診の患者数			６３，８９１人

（注）１．「紹介率」欄は、A，B，Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第１位まで記入すること。

２．A，B，C，Dは、それぞれの延数を記入すること。

（様式13－2）

規則第９条の２３及び第１条の１１各号に掲げる体制の確保状況

①　専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	(有)（２名）・無
②　専任の院内感染対策を行う者の配置状況	(有)（２名）・無
③　医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	(有)・無

・　所属職員：　専任（５）名　兼任（４）名

・　活動の主な内容：

・医療安全推進活動等の教職員への周知

・インシデント・アクシデント等の情報の収集、分析、予防・改善策の立案及び実施

・教職員への安全に関する教育・研修の企画、運営

・事故等に関する診療録や看護記録等への記載の確認と助言

・事故等の原因究明の実施の確認と助言

・改善策実施のための各部門への依頼、調整、助言、コンサルテーション

・改善策実施後の評価と周知

・リスクマネジメントマニュアルの管理・運用

・リスクマネジメント委員会の資料及び議事録の作成及び保存、その他リスクマネジメント委員会の庶務に関すること

・医療安全連絡会議の運営に関すること

・院内感染対策に関する連携

④　当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に応じる体制の確保状況	(有)・無
⑤　医療に係る安全管理のための指針の整備状況	(有)・無

・　指針の主な内容：

我々医療機関には「患者が安心して医療を受けられる環境を整え、提供すること」が求められている。最も避けるべきは医療を通じて加害することである。それには「人間は必ずミスを冒す」という事実を認識し、個々人の知識・技術の向上に加えて、安全が確保できるシステムの構築が必要である。当院に勤務する全ての教職員及び委託・派遣職員に対して、より安全な医療の提供と患者満足度の向上を第一にした医療活動を再認識させ、安全に対する意識を育み関係法令を遵守した改善・改革を推進していくことを安全管理の基本方針としている。

・リスクマネジメント委員会の設置

・医療問題発生報告制度の運用と評価・分析、医療問題再発防止策の確立

・教育、研修の企画と運営

・問題事例発生時の緊急リスクマネジメント委員会での検証及び対応

⑥　医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年１２回

・　活動の主な内容

リスクマネジメント委員会

・医療事故防止対策の検討及び研究に関すること
・医療事故の分析及び再発防止策の検討に関すること
・医療事故防止のために行う提言に関すること
・医療安全推進のための啓発、教育、広報及び出版に関すること
・医薬品、医療機器の安全管理及び院内感染対策に関すること
・医療安全の推進に関すること
・医療訴訟に関すること
・スタットコールに関すること

フロアリスクマネージャー会議（外来・中央診療部門及び病棟・手術・ＩＣＵ部門）

・重大事例、インシデント、アクシデント事例及び警鐘的事例の原因分析並びに再発防止策の検討及び提言・実施に関すること
・医療問題に関する諸記録の点検に関すること
・医療事故防止のための啓発、広報等に関すること
・他の委員会に対する勧告案の検討に関すること
・医療安全の推進に関すること

４病院リスクマネジメント会議（年４回）

・附属４病院及び晴海トリトンクリニックとの連携強化と情報共有のための会議

⑦　医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年度延開催数４６回

・　研修の主な内容：

４病院合同リスクマネジメントシンポジウム

・転倒・転落防止に対する取り組み（出席者６２７名）
・医療安全の教育（出席者９５２名）
・患者サービスの視点から取り組む医療安全活動（出席者８１１名）

シンポジウム、研修会、セミナー、ワークショップ

・初期臨床研修医オリエンテーション（出席者３８名）
・リスクマネジメント基礎研修会（４回開催、延べ出席者４６２名）
・薬剤・感染セミナー（２回開催、延べ出席者３９８名）
・医療安全推進活動の報告会（出席者１５２名）
・感染対策セミナー（２回開催、延べ出席者２６６名）
・個人情報保護法セミナー（出席者２００名）
・暴力対策セミナー（出席者２１１名）
・派遣・委託職員リスクマネジメント研修会（２回開催、延べ出席者２９０名）
・医療機器の安全使用講習会（１４回開催、延べ出席者６６１名）
・医療の安全教育ワークショップ（４回開催、延べ出席者２６３名）

⑧　医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況
・　医療機関内における事故報告等の整備　　(有)・無 ・　その他の改善のための方策の主な内容： ・院長、医療安全管理部長及び医療安全推進室等の管理部門への報告体制の確立と組織的対応の実施 ・パソコンによる医療問題発生報告制度の運用 ・教職員に対する医療問題発生時の報告ルートの明示 ・緊急リスクマネジメント委員会での事実確認及び組織的対応の実施 ・リスクマネジメント委員会及びフロアリスクマネージャー会議、医療安全推進室を通じた再発防止策の徹底 ・医療問題分析ツール　ＲＣＡ分析の実施 ・問題種別のワーキンググループによる再発防止対策の立案と実践 ・医療安全院内ラウンドによる評価、検証、フィードバック 報告体制の整備 ・関東信越厚生局及び東京都福祉保険局、日本医療機能評価機構への適切な報告 ・所轄警察署への報告 ・異状死報告手順の確立とモデル事業への参画 ・医療事故等に関する判定委員会の設置と医療事故等公表基準の整備・運用

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	(有) ・ 無
・ 指針の主な内容： 1．院内感染対策に関する基本的考え方 2．院内感染対策のための組織 3．院内感染対策のための教職員に対する研修 4．感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5．院内感染発生時の対応に関する基本方針 6．当該指針の閲覧 7．院内感染対策推進のために必要なその他の基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年１２回
・ 活動の主な内容： 1．菌検出状況報告と対策の検討 2．抗菌薬使用状況報告と対策の検討 3．感染に関する問題発生報告と対策の検討 4．血液体液汚染発生状況報告と対策の検討 5．感染対策のための啓発、教育、広報に関する検討 6．感染対策指針およびマニュアルの改訂、運用に関する検討	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年２２回
・ 研修の主な内容 1．研修医オリエンテーション：感染対策について 2．新入職看護師技術研修：標準予防策・針刺し事故防止 3．ＱＦＴ検査とその応用 4．薬剤・感染セミナー：食中毒について 5．委託業者対象感染対策勉強会 6．院内感染対策セミナー：職業感染対策　インフルエンザ 7．薬剤・感染セミナー：針刺し防止対策 8．院内感染対策における分子疫学の応用　　他	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・ 病院における発生状況の報告等の整備　（(有)・無）	
・ その他の改善のための方策の主な内容： 1．感染対策上重要な病原体が検出されると、検査室よりただちに感染対策室へ報告される。また病棟などで、感染力の強い感染症の疑いが発生した場合にも、ただちに感染対策室へ報告され、担当者が対応する体制となっている。 2．感染対策室は、日々の情報収集から介入が必要な病棟や診療科を対象として重点的にミーティングや勉強会を開催している。	

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年２回
・ 研修の主な内容： ・第１回 薬剤・感染セミナー「改正医療法について」、「薬剤の血管外漏出」 ・第２回 薬剤・感染セミナー「危ない薬「イノバン」」	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 （(有)・無） ・ 業務の主な内容 平成１９年６月に厚生労働科学研究からの業務手順書作成マニュアルを基に制定し、今年度９月に改訂を行った。また、９月下旬に改訂後の手順書（チェックリストとして使用可）を関係部署に配布し、実施状況を確認し記録している。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （(有)・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： リスクマネジメント委員会の一部として、薬剤検討ワーキンググループを設置し、毎月インシデント報告の分析を基に改善の検討を行っている。また、薬剤部の医薬品情報室と連携をとり、情報の収集を行っている。	

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年１４回

・ 研修の主な内容：
- ・輸液と電解質の管理を学ぶ、輸液ポンプ、シリンジポンプの正しく安全な使用と保守点検方法を学ぶ
- ・心電図の基礎を学ぶ、患者の周辺医療機器、心電図モニタ、パルスオキシメーター、除細動器の安全使用を学ぶ
- ・人工呼吸器の安全使用、トラブル事例、保守点検方法を学ぶ、人工呼吸器装着中の正しい看護を学ぶ
- ・呼吸不全を学ぶ、正しい気道ケアを学ぶ　　他

③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況

・ 計画の策定　（(有)・無　）

・ 保守点検の主な内容：

中央検査部、リハビリテーション科、臨床工学部関連（各外来、ＩＣＵ、ＣＣＵ、母子センターなどの特殊病棟含む全病棟、手術室、血液浄化部、救急部、内視鏡部など）それぞれの部門に設置（配置）されている各種機器について、日常点検（始業点検、使用中点検、使用後点検）を行う。

保守点検を実施している主な医療機器

人工心肺装置及び補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動器、閉鎖式保育器、診療用高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線照射装置、輸液ポンプ、シリンジポンプ

④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

・ 医療機器に係る情報の収集の整備　（(有)・無　）

・ その他の改善のための方策の主な内容：
- ・輸液セット滴数切り替えの調整
- ・大動脈バルーンパンピング（IABP）自主回収・ACAT-1
- ・空気・酸素混合装置　流量計付ブレンダ回収
- ・非加熱式ネブライザ自主回収
- ・人工呼吸器・HT-50 について注意喚起
- ・人工呼吸器ＬＴＶシリーズ自主回収
- ・内視鏡用ディスポ鉗子の自主回収